

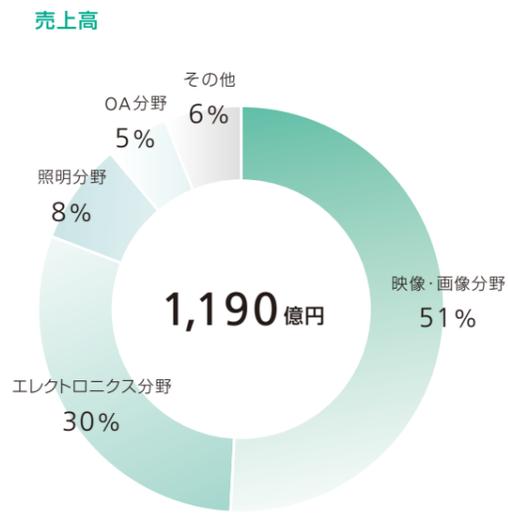
サステナビリティレポート2010
Year ended March 31, 2010



ウシオグループ At a Glance

1964年、産業用光源メーカーとしてスタートしたウシオは、新光源の開発、独自の光学技術の開発・応用に努め、ユニットや装置、システム、さらには光のソリューションを提供する「光創造企業」へと発展してきました。

その光技術は、「あかり」の領域だけでなく、産業や科学技術の先端分野で「エネルギー」として幅広く利用され、数多くの「世界シェアNo.1」製品を誕生させるとともに、今日では、バイオ・医療、MEMS (Micro Electro Mechanical System)、映像をはじめとする、新しいビジネスフィールドを開拓しています。



会社概要 2010年3月31日現在

商号	ウシオ電機株式会社
本社	東京都千代田区大手町2-6-1
設立	1964年3月
資本金	19,556,326,316円
グループ従業員数	4,732名

映像・画像分野



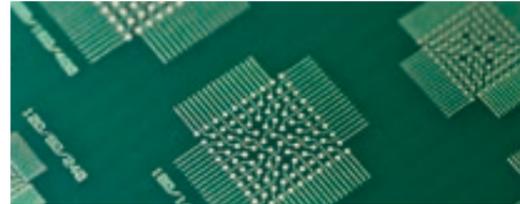
主な製品

デジタルシネマプロジェクト
フィルムシネマプロジェクト
シネマプロジェクト用ランプ
データプロジェクト用ランプ

主なグループ会社

- CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS U.S.A., INC.
- CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA, INC.
- 株式会社ジーベックス
- クリスティ・デジタル・システムズ 日本支社

エレクトロニクス分野



リソグラフィ用ランプ/レーザ/EUV
各種基板向け露光装置
液晶パネル貼り合わせ装置
液晶パネル光洗浄装置
紫外線硬化装置
光加熱装置

- ギガフォトン株式会社
- XTREME technologies GmbH

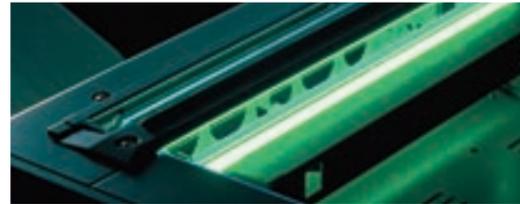
照明分野



ハロゲンランプ
メタルハライドランプ
クセノンショートアークランプ
LED
各種スポットライト

- ウシオライティング株式会社
- 株式会社ウシオスペース

OA分野



原稿読み取り用光源
トナー定着用光源

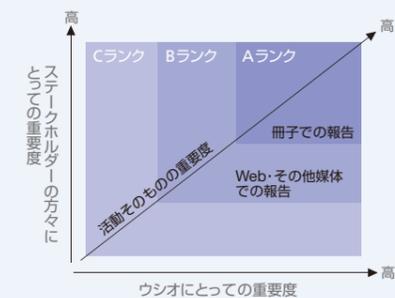
- USHIO HONG KONG LTD.
- USHIO (SUZHOU) CO., LTD.

サステナビリティレポートでお伝えしたいこと

「サステナビリティレポート2010」の作成にあたっては、お読みいただく方々の関心は何か、本当に報告すべき重要なことは何かということを検討し、右図のとおり、決めました。これまでのレポートに受け継がれている3つのボトムライン「経済性報告」「社会性報告」「環境報告」を残しつつ、少しでも多くのステークホルダーの方々にウシオグループの取り組みを理解していただき、関心を持っていただくために、「人」「環境」「CSRへの取り組み」を重視した報告書を作成しました。

なお、原稿の執筆にあたっては、「GRI サステナビリティ レポーティング ガイドライン 第3版」「環境報告ガイドライン(2007年版)」を参考に、当社独自の項立てを作成しています。

ウシオグループにおけるマテリアリティの考え方



• ホームページの活用について

左記の考え方で冊子「サステナビリティレポート2010」を作成する一方で、より網羅的、詳細な報告のためにホームページを活用しています。下記マークの付いた項目に関しては、ウシオ電機のホームページをご覧ください。

Web <http://www.ushio.co.jp/jp/csr/index.html>

• 報告対象範囲

期間: 基本的に2009年度(2009年4月1日～2010年3月31日)までの活動内容について報告していますが、一部それ以前から継続している活動や、2010年度の取り組みも含まれます。

組織: 当社全事業所および国内外のグループ会社

目次

- C2 ウシオグループ At a Glance
- 2 トップメッセージ
- 4 特集 わたしの仕事≒CSR

ウシオの理念とCSR経営

- 8 企業理念
- 9 コーポレートガバナンス

社会とともに

- 11 社会の一員として私たちの行動指針10
- 12 社員とともに
- 14 お客さまとともに
- 15 お取引先さまとともに
- 16 地域社会とともに

環境の取り組み

- 18 ウシオ電機環境方針
- 19 第二期環境行動計画ハイライト 2020年環境ビジョン
- 20 第三期環境行動計画
- 22 環境マネジメント
- 23 地球温暖化防止の取り組み
- 25 グリーンプロダクトの取り組み
- 26 資源節約の取り組み
- 27 環境コミュニケーション

経営・財務の報告

- 28 経営・財務報告
- 29 第三者意見/第三者意見を受けて

トップメッセージ

「21世紀型の経営」を目指して



21世紀に入って10年がたちました。ここへきて地球温暖化や生物多様性の減少といった環境問題、物質の豊かさによる社会のゆるみなど、いろいろな問題が出てきています。「もて栄えて、心で滅びる」——薬師寺管主の高田好胤さんがこう警鐘を鳴らされたことがありました。高度経済成長期に失ってしまった大切なものに人びとが気づき、それを取り戻そうとする動きが、今の消費傾向にも表れているのかもしれませんが。

今、企業に求められているのは「21世紀型の経営」です。従来の経営と「21世紀型の経営」の違いは第一に環境問題への取り組みです。自然を壊さず、有限の資源をムダにしない企業活動であり、市場が求める環境ニーズに応える製品やサービスの提供です。第二にグローバル化へのさらなる対応です。日本は成長するアジアとともに地域経済の活性化に貢献し、自らも成長するチャンスを作り出さなければなりません。国民性や文化の違いを相互に理解しあい、世界の人々とともに生きていく覚悟を持つことが大切です。

第三に人材です。社員一人ひとりが自らのワークライフバランスをどう考えるかが重要です。生きる目的、使命感、志を持っていることや、誰かの役に立ち必要とされている実感、喜びや悲しみをともに分かち合ってくれる家族や仲間にも恵まれていることが非常に大きな要素を占めると思います。一人ひとりが主体性を持ち、個性や想像力を発揮する社会を構築していくことが求められています。また、思いやりにも裏打ちされたボランティア活動は、21世紀の社会の重要な部分を占めるようになると思います。

すなわち、質の高い企業には、質の高い人生観を持つ、質の高い社員が必要なのです。

ウシオグループのミッションは創業時から変わりません。高品質な光とその応用製品を市場にお届けすることであり、お客さまの課題を解決することです。光の持つ可能性を信じ、光を問題解決のための力に変え、新たな光で見たことのないマーケットを創っていく。それがウシオグループの社会的責任だと考えます。

代表取締役会長兼
ウシオグループ代表

西田直尚

全てのステークホルダーへ満足と希望を



社会・環境の変化に対応する事業展開

2008年後半より世界を襲った不況は、企業に対する社会や環境に関する要求を大きく変化させました。環境の側面では、より省エネ・高効率へのリクエストが高まり、社会の側面では、雇用をはじめ企業の社会的責任が強く問われました。当社グループは、中期経営ビジョンに環境を念頭に置いた事業展開を掲げ、従来製品への一層の環境配慮とともに、環境効率に優れる固体光源などの新しい事業分野に積極的に取り組み、社会のニーズに応えてまいります。

本業に根ざした環境の取り組み

当社グループの環境への取り組みは、過去6年の成果と反省の上に、第3期を迎えます。環境ビジョンで定めた2020年のあるべき姿を実現するために、2012年までにウシオが取り組むべき課題を掲げました。地球温暖化防止のためにCO₂の削減目標を絶対値とし、新たに生物多様性保全に取り組むことも目標に取り入れしました。半導体製造装置に使用される超高圧UVランプや映画館用のクセノンランプの回収は業界に先駆けたものであり、顧客のニーズを捉えた新たな取り組みであると同時に環境の

保全に貢献するものとなっています。また、ウシオグループの企業理念に「優れた製品、新しい研究開発を通じ、進んで社会に貢献すること。」とある通り、製品における環境貢献についてもウシオグループの重要な責任の一つとして捉え、積極的に取り組んでおります。特に昨今はお客さまの環境に対する意識も非常に高いものとなってきています。今まで以上に、お客さまの手に製品が渡った後、環境面でも貢献できるような製品の開発・提案を目指してまいります。

広い意味のCSR

企業の社会的責任は、法令の遵守、環境への配慮や社会貢献などの狭い意味だけでなく、「より良い製品やサービスの提供」「安定利潤の確保」「適正な利潤の還元」を通じて、社会に貢献することと広く捉えています。

これらを着実に実行し、持続的に成長・発展することにより、社員、お客さま、お取引先さま、地域社会、株主といった全てのステークホルダーに満足と希望を提供していくため、あるべき姿を描き、必要な事業展開や制度の充実を進めてまいります。

代表取締役社長
(環境委員会委員長、グループ環境会議議長)

菅田史朗

特集 わたしの仕事≡CSR

今回の特集では、私たちが重視している5つの要素である「ヒト、品質、環境、社会、法令遵守」について、社員一人ひとりがどのように意識し、どのように取り組んでいるのかをご紹介します。

ヒト



井上 信雄さん
USHIO電機(株) 品質管理部

定年になっても、これまでの経験が何か役に立つことがあればシニアエキスパートの道を選択しました。長年ランプを作ることに携わってきましたが、まだまだ新しい発見も多く、興味をそられる毎日です。職場の皆さんといっしょに考えていけるそんな環境の中で、これからもより良いクセノンランプづくりのために努めていきます。

会社は、いろいろな個性と価値観を持った人たちが、それぞれの能力を存分に発揮しながら、目標に向かって連帯し、共同作業を行う舞台であると考えています。定年を過ぎても、これまで培った経験と意欲を発揮し下の世代に伝えることで受け継がれていくものがあると考えます。詳しくはP12「社員とともに」をご覧ください。

詳しくは → P12



門田 昌仁さん
USHIO電機(株) 製造部

デジタルシネマ用ランプの需要拡大により、増産対応で嬉しい悲鳴をあげています。そのため、ライン内は非常に忙しい状態ですが安全確保を第一に、作業の効率化、品質の維持向上に努めています。

お客様の海外進出に伴い、USHIOグループの製品の海外生産拠点での生産品目も増加しています。海外製造拠点でも日本国内と同様の品質・顧客対応ができるように、国内拠点と海外拠点の人材の交流など現地人材の育成に力を入れています。



ブレンダ・イソイさん
USHIO PHILIPPINES, INC. 製造部

私は2007年から2008年にかけてランプの製造工程を学ぶため半年間播磨事業所に滞在する機会を得ました。最初の2ヶ月は語学研修を受け、2008年からは製造現場での研修でした。製造現場の研修では、言葉の壁や気候(当時冬)などに慣れず苦労しましたが、品質に大きな影響を与える封体加工の製造技術を身に付けることができました。日本で学んだことはフィリピンの工場でも大変役立っています。目に見える形での成果として、私たちが製品を作る上の自信につながっています。



北田 幸代さん
USHIO電機(株) 製造部

周囲で育児をしながら働いている人も多く、育児休暇を取ることにしてそれほどの不安はありませんでした。復帰すると今まで育児に専念していたのが嘘のように、また忙しい日々が続いています。これから育児休暇をとろうとされている方は、安心して育児休暇をゆっくり活用してください。復帰するとまた忙しい日々が始まりますよ。

USHIO電機では、2期連続で「次世代育成支援対策推進法」認定マーク「くるみん」を取得するなど、様々な両立支援制度を設けて子育てと仕事の両立に取り組んでいます。詳しくはP12「社員とともに」をご覧ください。

詳しくは → P12

品質・顧客満足



呂 瑛さん
USHIO(SUZHOU) CO., LTD. 品質技術課

私はOA製品の技術を担当しています。日本から設計の移管業務が始まりました。新たなことをいろいろ教えていただき、蘇州で生産しているランプがどんな考えで設計されているかが少しずつ解ってきました。今までは工程内でトラブルが発生した場合、日本の技術者に相談し、図面の変更や仕様の変更をお願いしていましたが、少しでも早く迅速な現地での対応ができる様勉強して頑張っていきたいと思っています。



ルート・スカウテンさん
USHIO EUROPE B.V. 営業部

USHIOヨーロッパで、ベネルクス、スカンジナビア、バルト三国、トルコ地域へ装置を除くUSHIOグループ製品の拡販、OEM先の開拓を行っています。2012年より施行予定の、貨物船などに使用されるバラスト水の殺菌に関する法律に対応すべく、殺菌装置メーカーランプだけでなくUSHIOヨーロッパで開発・設計した電源とセットで提案し、ユーザーニーズへより細かく対応するよう努力しました。今後もUSHIOの強みを最大限に活かし、顧客の悩みの解決や、社会に役立つ製品の提供につながるよう努めていきます。



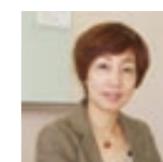
仲田 由美子さん
USHIO電機(株) 営業部

映画館用のクセノンランプのリサイクルプログラムの運用に取り組んでいます。きっかけは「捨て方が分からない使用済みクセノンランプが溜まって困っている。」というお客様の声でした。実現することが難しいと思われた回収リサイクルの仕組みを実現し、お客様の喜ぶ姿を見ることができたのは何より嬉しく思います。さらに、廃棄物を減らすことで環境面でも貢献します。

私たちは顧客満足を第一に考え、優れた製品、新しい研究開発を通じ、豊かで幸福な社会の実現に寄与できるような、社会的に意義のある事業に取り組んでいます。そのような取り組みの中から誕生したクセノンランプ回収リサイクルの取り組みについては、P26「資源節約の取り組み」をご参照ください。

詳しくは → P26

USHIOグループでは、優れた製品、新しい製品、よりよいサービスを作り出し提供することは企業としての基本だと考えています。今年はUSHIO電機における品質方針の統合を行い、また「光のトリセツ」の作成など、お客様視点からの取り組みを行っています。詳しくはP14「お客様とともに」をご参照ください。



高 霞さん
USHIO SHANGHAI, INC. 管理部

USHIO上海とUSHIO深圳では、2009年7月より、合同の社内報「China Window」(月報)を発行し、毎月トップメッセージや社内活動を告知し、コミュニケーションの活性化を図っています。また、「中国市場へのUSHIO製品の拡販」という重要な役割を担う各代理店との関係構築のためのツールとしても役立っています。最近、社員が日々の仕事やプライベートでの出来事なども続々と載せ始めました。これからもより良い会社づくりのために、「China Window」を継続して発行していきたいと思っています。

詳しくは → P14



甲斐 三省さん
USHIOライティング(株) 広報室

CSRを果たす上で、「Bridging the gap」…企業とステークホルダーの架け橋となるだけでなく、ステークホルダーがUSHIOに抱くイメージとUSHIOの現実との間に存在する「ギャップ」を埋めるべく、常に「真の姿」が伝わるよう、情報提供には気を配っています。また、今、市場やお客様の欲している情報が何であるかをすばやく的確に察知、「Just in Time」で提供することで、ステークホルダーの満足度向上に努めています。

環境・社会貢献



今道 一彰さん
日本電子技術(株) 技術部

日本電子技術では、毎年ボランティア活動に参加しています。今年は南足柄市にある「21世紀の森」の下草刈りに参加しました。下草刈りは、植林した苗木に日の光が当たるようにするとともに、栄養が雑草にとられないようにし苗木が育つようにする役目があります。
夏の暑い日差しの中で汗だくの作業ですが、刈った後の草の香りを感じ、刈っていくことによって、出没する昆虫や植物を救われるなど日常では味わえない新鮮な発見があります。また自然環境の中で共同作業をすることにより、会社内ではできないコミュニケーションを深める絶好の機会ともなっています。

ウシオグループでは様々な社会貢献や環境コミュニケーションの取り組みが行われています。ウシオアメリカでは、「ウシオエンジェル」と呼ばれる人たちが癌と闘う人たちの支援活動を行っています。ウシオグループの社会貢献の取り組みはP16「地域社会とともに」を、環境コミュニケーション取り組みについてはP27「環境コミュニケーション」をご覧ください。

詳しくは → P16 P27



クリスティ・デュバルさん
USHIO AMERICA, INC. プロダクションオペレーター

癌は様々な形で私たちの人生を揺るがします。愛する人や友人を癌で亡くし悲しみにくれたり、自分が癌の宣告を受たり。私は癌で失った友人や癌を克服した人を思いながらアメリカ癌協会の「リレーフォーライフ」を応援しています。自分のために、そして現在癌と戦う人のために、私は今後も癌協会を応援していきたいと思っています。

ウシオグループでは、グループ体となった環境への取り組みを実施しています。第三期環境行動計画では、グループ間連携の強化を図っています。ウシオグループの環境への取り組みについての詳細は、P18からの「環境の取り組み」をご参照ください。

詳しくは → P18



パメラ ロスマンさん
CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS, INC. EMS部門 マネージャー

クリスティUSAにてEMS部門のマネージャーとして、環境マネジメントシステム(EMS)のコンプライアンスとECO-SYSプログラムの継続的な強化に携わっています。従業員へのリサイクルプロジェクトや、電気電子機器廃棄物に関するイベント、ミニバン乗り合い通勤、および地域社会イベントへの参加などの取り組みの促進も行なっています。環境関連事項や諸問題を最重要事項として認識し、積極的に取り組んでいるこのような素晴らしい会社で働けることを、とても誇りに思っています。

自社で使用する電力だけでなく製品も省エネにすることで、お客さまに製品が渡ってから環境に貢献する、ウシオグループではそんな取り組みにも力を入れています。詳しくはP25「グリーンプロダクトの取り組み」をご参照ください。

詳しくは → P25



吉岡 和雅さん
ウシオ電機(株) 技術部

スキャナ用光源の新製品として、LEDモジュールの設計を行っています。オフィス用のコピー機には主に希ガス蛍光灯が使われていますが、現在開発を行っているLEDモジュールを使えば、希ガスランプより効率(電力と原稿面照度)が70%良くなります。いまや環境負荷低減は製品価値を決める重要な要素となっていると感じながら、製品化に取り組んでいます。

法令遵守・社会



藪内 淳子さん
ウシオ電機(株) 管理本部IT統括室

東京ITグループで、営業でのEDI(電子商取引。例えば、インターネットを通じ受注・見積りなどの情報を企業間でデータ送受信する仕組み)運用のサポートを行っています。EDIでは企業にとって重要な情報が扱われます。運用上ユーザーIDを知ることや、同情報の取り扱いには注意し、また、利用者の方にも、そのことを意識付けるよう心掛けています。

私たちは「法令遵守」はもとより、「社会のルールや良識を守ること」も、コンプライアンスの範囲と考えています。ウシオグループでは、法令を遵守し、社会の良識に従って、公正な企業活動を行なうことを心掛けています。詳しくはP8からの「ウシオの理念とCSR経営」をご参照ください。

詳しくは → P8



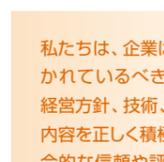
ケイ マツダさん
CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS, INC. 内部監査室ディレクター

クリスティグループの業務監査およびJ-SOXを担当しています。業務監査は法令遵守・社内規程遵守・会計ルール適正性を検討評価し、改善が必要な場合はフォローアップします。J-SOXは内部統制におけるリスクとコントロールを識別文書化し、整備運用の有効性を評価します。業務内容やシステムを理解するよう勉強し、効果的な監査が実施できるよう努めています。



先岡 久美子さん
ウシオ電機(株) 業務部営業管理課

現在、営業部門で、内部統制を中心に、債権管理や与信管理を担当しています。一部上場企業に義務化されている内部統制の遵守は、正しい日常業務の積み重ねの上に成り立っています。営業部門の皆さんがその自覚を持ち、業務を遂行できるような仕組みの構築や、処理の意味を理解し、間違った慣習には疑問を感じるまでの知識を身に付けられるように、指導・育成を心掛けています。



山田 宏一さん
ウシオ電機(株) 広報IR室

私たちは、企業は社会に対して、透明で開かれているべきであると考えています。経営方針、技術、製品、その他事業活動の内容を正しく積極的に公表することで、社会的な信頼や評価を得ることができると考えています。また、情報の積極的な情報開示に努めると同時に、第三者の情報の価値や権利を尊重します。

ウシオがCSRを重視している背景には「企業価値の向上」という側面もあります。ウシオの取り組みを正しくご理解いただき、ステークホルダーとのより良い信頼関係を構築する。その有効な手段のひとつがコミュニケーション活動であり、広報IR室が得意とする分野です。これからも、Webや展示会、PR誌や社内報を通じて、積極的な双方向コミュニケーションを推進していきたいと思っております。



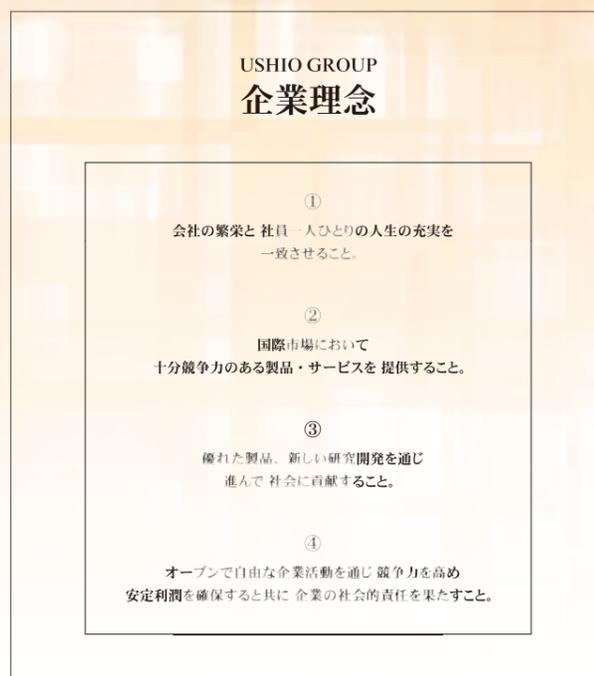
中尾 智子さん
ウシオ電機(株) 知的財産部

知的財産部で特許などの出願や管理に従事しています。知的財産権は当社の財産であり、出願前・公開前の内容は情報漏洩がないよう留意し、登録後の権利については、維持・管理がきちんとできているか常に気を付けています。もちろん、自社の権利と同じように他社の権利を尊重する姿勢も忘れません。万が一のときは最優先課題として対応し、リスク回避に努めています。

財産権を尊重して活動を行なうことも企業にとって重要な社会的責任のひとつです。私たちは常に会社や他人の財産や資産を尊重し損なうことのないように努めています。

ウシオの理念とCSR経営

ウシオ電機およびウシオグループ社員のあらゆる活動の根幹となる企業理念は、創業時、「ウシオ電機が社員の英知によって成長し、一人ひとりの人生の中になくしてはならない、生きがいのような存在になっていけたら…」との思いのもとにつくられた「四つの基本方針」が、時代に合わせた改訂を経て現在の形になりました。ウシオグループの目指すべき姿として、その理念は変わらず継承され続けています。



基本方針

ウシオグループの基本方針は、企業経営における透明性と効率性を確保すること、および、全てのステークホルダーの方々の期待に応じて企業価値を増大させていくことにあります。また、そのための法令・社会的規範・企業倫理の遵守およびJ-SOXを含めた内部統制の体制確立・維持を経営の最重要課題のひとつとして位置付け、これらを推進します。

コーポレートガバナンス体制

ウシオ電機の経営管理組織としては、経営方針などの重要課題に関する意思決定および業務執行の監督機関として「取締役会」、業務執行機関として「代表取締役」を設置しています。「取締役会」は月1回の定例開催のほか、必要に応じて臨時に開催しています。また、監査役会制度を採用しており、監査機関として5名の監査役のうち3名の社外監査役を含む「監査役会」を設置するとともに、各監査役は各々専門の監査分野を持ち監査を実施しています。さらに、ウシオ電機ならびにグループ全体の経営戦略や中長期の経営方針などを審議するため、「経営会議」「グループ経営会議」を設け、取締役会の意思決定を支援するとともに、代表取締役の業務執行の強化や迅速性を高めるため、「事業部制度」や「執行役員制度」を導入しています。

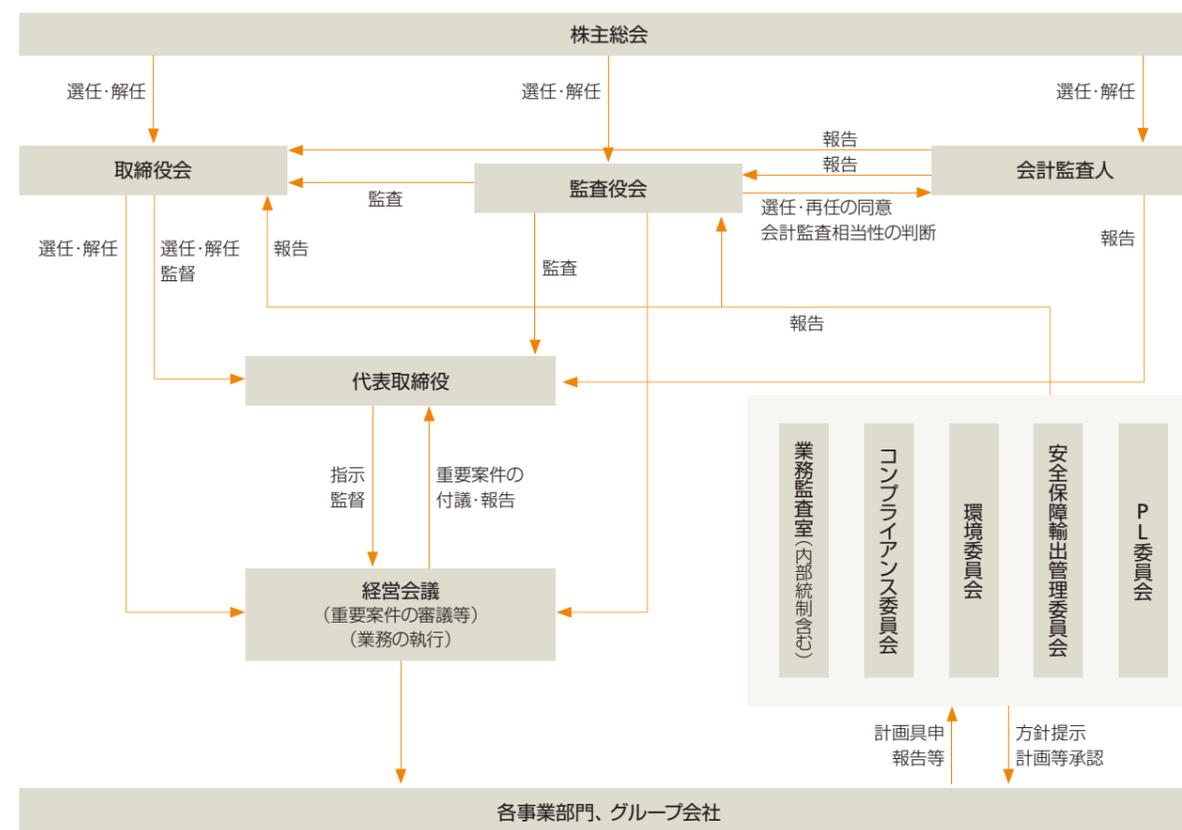
内部統制の仕組み

ウシオグループでは、全グループ社員が法令、定款および企業理念を遵守した行動をするための行動指針を定めています。また、その徹底を図るために、コンプライアンス担当部門を設け、内部監査部門はコンプライアンス担当部門と連携の上、コンプライアンス体制の整備・運用状況を監査し、適宜取締役会および監査役会に報告しています。

なお、コンプライアンス、環境、品質、財務、法務、災害、情報および輸出管理などに関わるリスクについては、それぞれの担当部署において規則やガイドラインの制定、研修の実施、マニュアルの作成や配布などを行なっています。

Web <http://www.uschio.co.jp/jp/csr/manage/index.html>

ウシオ電機内部統制図



業務監査の強化

企業内不祥事の未然防止および会社法・金融商品取引法の制定に伴い、内部監査の重要性が増えています。内部監査には法令・規程などの準拠性監査、内部統制の整備・運用の評価のみならず、コンサルティング機能も求められるようになってきました。

ウシオ電機では、コンプライアンス監査や安全保障輸出管理の監査をはじめとする様々な監査を実施しています。今後も、「内部監査規程」に基づき、法令・規程などに止まらず、業務および現場の実態を良く見て、経営の合理化、業務の改善、資産の保全、経営上のリスク最小化および体質改善につながる監査・提言を行なってまいります。また、他部門や監査役との連携も深めて監査を実施していきます。

輸出関連法規制の遵守

輸出時に遵守する法律は、外為法や米国再輸出規制など多岐にわたっており、これらの法令に反すると、お客さまとの取引ができなくなってしまう恐れもあります。そのためウシオ電機では、「輸出関連法規遵守のための社内規則」に従い、安全保障輸出管理委員会が中心となり、輸出関連法規を遵守しています。

2009年度は、安全保障輸出管理の基本方針および行動指針を制定し、安全保障輸出管理委員会合同会議を通じて、ウシオ電機の各事業所・営業所・各部門との情報の共有化・標準化を行ないました。同時に、関係会社に対しては管理一本化に向け安保グループ連絡会議を開催し、見える化するためのシステムの構築を行ないました。懸念顧客検索システムを導入することで、顧客管理の強化も図っています。

今後もグループ一体となった情報の共有化・標準化を進め、教育・啓発・監査の体制を充実させ、PDCAの仕組み強化を進めていきます。

「ウシオ ヘルプライン」

ウシオグループでは、「ウシオ ヘルプライン」制度を2006年10月から開設しています。これは、国内におけるグループの全社員が職場における法令違反や社内規則違反、企業倫理違反などの行為について、直接相談や通報ができる外部窓口であり、不正行為などの早期発見と是正、相談者や通報者の保護を目的に運用されています。



「ウシオ ヘルプライン」ポスター

情報セキュリティー

事業活動にはITの利用が不可欠となっている一方で、機密情報や個人情報の漏洩やコンピューターウイルス感染、不正アクセス行為やシステムダウンによる事業の中断など、様々なセキュリティー事故が世の中で相次いでいます。

ウシオ電機が事業を推進していくために保有している情報は、お客さまやお取引先さまに関する重要なものであることを認識し、情報の取り扱いに必要なルールを定め、秘密情報を適切に保護することを義務付け徹底しています。また、個人情報保護法の遵守も重視しています。

運用面では、遵守意識の向上と効果的な運用を図るために、運用状況の評価を部門が自己診断し、継続的に改善していくサイクルについての取り組みを始めており、全社に展開していきます。

物理アクセスの面では、入退室管理と就業管理を併せて行えるよう、ICカード式入退室管理システムを導入しています。併せてプログラム資産管理、コンピューターウイルス対策をサーバー集中管理し、管理負荷を抑えつつ強化を図っています。

社会とともに

社会の一員として 私たちの行動指針10

- ① 私たちは、多様な個性と価値観を受け入れ、共働する会社を目指し、自己研鑽と自己改革に努めます。
- ② 私たちは、革新的で、挑戦的で、スピーディーな経営に取り組み、会社としての永続的な発展に努めます。
- ③ 私たちは、すべての人々の基本的な人権を尊重し、明るく安全快適な職場環境を作ります。
- ④ 私たちは、良質で安全な製品・サービスを適正な価格で提供し、公正・公平な取引を行ないます。
- ⑤ 私たちは、社会から理解と信頼を得られるように努めます。
- ⑥ 私たちは、法令を遵守し、社会的良識に従って、公正な企業活動を行ないます。
- ⑦ 私たちは、会社の定める規則や基準に従い、誠実に職務を遂行します。
- ⑧ 私たちは、環境保全と資源の有効活用に取り組みます。
- ⑨ 私たちは、積極的な広報活動を行なうとともに、第三者の情報の価値や権利を尊重します。
- ⑩ 私たちは、国際社会の一員として、それぞれの地域の発展に貢献します。

社員とともに

企業理念である「会社の繁栄と社員一人ひとりの人生の充実を一致させること」に基づき、多様な人材の育成・活用、社員にとって働きがいのある職場づくりに取り組んでいます。

人権の尊重

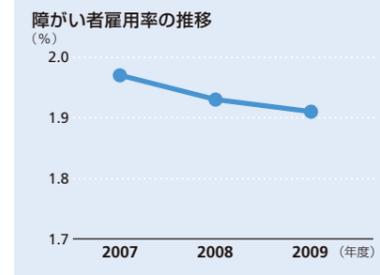
ウシオグループでは国際労働機関(ILO)による「労働における基本原則及び権利」を尊重しています。また、『わたしたちの行動指針10』の手引書の中では、「人種・性別・宗教・国籍など能力や職務遂行と関係のない理由により、不当に差別することのないように努める」「対話を通して常に誠実と相互の信頼を基調とした、良好な労使関係の形成・維持を図ること」などをうたっています。

グローバルな人材の活用

ウシオグループの所在地別売上高を見ると、海外での売上高は50%を超える規模になっています。そのため、留学制度の制定や海外留学生の採用をはじめ、海外グループ会社からの親会社への出向やグループ会社間における人材の交流を通して、グローバルな人材の育成・活用を行なっています。

障がい者雇用

ウシオ電機には、2010年3月31日時点で障がいを持つ従業員が26名勤務しており、障がい者雇用率は法定の1.8%を超える1.91%となっています。また、障がい者雇用促進のため、職場見学の開催、合同説明会への参加、地域の学校への積極的な求人活動などの取り組みをしています。また、職場環境の整備のため、トイレのドアを引き戸にしたり、階段に手すりをつけるなど、事業所のバリアフリー化なども進めています。今後も障



がい者の雇用促進に努めるとともに、障がい者が働きやすい職場環境の整備を目指していきます。

再雇用制度

ウシオ電機では、高齢者雇用についても積極的に支援しています。最長65歳までの再雇用制度による雇用延長制度(シニアパートナー、シニアエキスパート制度)があり、多数の社員が利用しています。

働く女性の支援

ウシオ電機では、世の中における大きな女性の退職理由と言われる出産・子育てと仕事の両立の支援にも力を入れ、女性が働きやすい会社づくりを目指しています。その結果、営業職・技術職における女性社員比率が増加しています。

ワークライフバランス・両立支援制度

働く男女ともに安心して仕事と家庭を両立できるよう職場環境の整備に努めており、育児休業をはじめとした法定水準を上回る支援制度を整備しています。2009年3月には、仕事と子育ての両立支援制度や母性保護、上司の対応方法など、制度を利用する社員および上司の心得を記載した「両立支援ハンドブック」を発行しました。

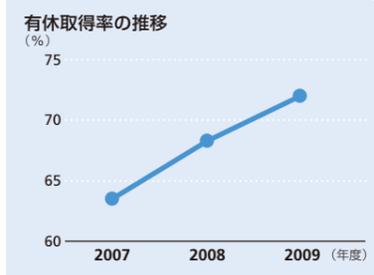
また2009年6月には、2期目の「次世代育成支援対策推進法」認定マーク「くるみん」を取得しました。認定を2期連続して取得した企業は、全国で67社だけ(2009年6月現在。厚生労働省発表)となっています。

育児休暇制度利用者推移

	2007年度	2008年度	2009年度
男性	2	0	0
女性	25	23	26
合計	27	23	26

ワークライフバランス・有給休暇の取得や定時退社日の制定

ワークライフバランスの観点から、家庭・友人と過ごす時間や自己啓発の時間を確保し、メリハリある職場環境の構築を行なうことを目的とし、定時退社日や計画年次有給休暇の実施を行なっています。休暇を取得しリフレッシュすることで、心身の健康を保ち、パフォーマンスの向上につながる当社では考えています。



社員の安全衛生

ウシオ電機では、社員が安心して働ける職場づくりを目指し、安全衛生への取り組みにも力を入れています。健康診断有所見者やメタボ者への保健指導、長時間労働者への産業医面談など、社員の健康を守るための様々な仕組みを設けています。

労働災害の防止

労働災害ゼロを目指して、各事業所では「安全パトロール」を実施しています。また、有機溶剤による健康被害を防ぐ目的で、代替物質への置き換えも進めています。

人材育成・教育研修

ウシオ電機では、会社の繁栄と社員一人ひとりの人生の充実を一致させることができるよう、様々な教育制度を設け、自立した人材の育成を目指しています。

国際化研修

- 留学制度: 専門知識や技術の習得ならびに国内外の文化・知識の吸収により、国際的視野を持った社員を育てることを目的としています。

自己啓発援助

- 通信教育: 語学、技術系基礎講座や資格取得のための講座に加え、マネジメントからパソコンスキルまで幅広くラインアップしています(2009年度は295講座)。修了すると奨励金が支給されるなど、社員の学習意欲に応えています。2009年度はのべ456講座の受講がありました。
- TOEIC試験: 社員が自己の英語レベルを把握、レベルアップを図ることを目的として、希望者にTOEIC試験を実施し、受験料の一部を会社が援助しています。2009年度はのべ230名が受験しました。

熟練技能道場

播磨事業所における放電ランプ製造部門では、長年培ってきたベテラン作業者の技能・ノウハウを若手の社員に伝承するための熟練技能訓練道場があります。

ランプづくりは非常にデリケートであり、技能・ノウハウの伝承が品質維持の観点からも非常に重要です。熟練技能訓練道場には、ウシオグループの海外製造拠点からも研修生が招かれ、技能の修得に汗を流しています。

当道場において技能・ノウハウを伝承するのは、会社から「マイスター」として認定された社員です。「マイスター」とは、「技能伝承・後継者育成」に熱心かつ伝承できる「指導力」を持ち、高精度な特殊加工などの「熟練技能者」として、卓越した能力があると会社から認定された社員です。



海外製造拠点からの研修生と

ウシオラーニングセンター

ウシオアメリカでは、長期ビジョンを実現するために、業務上必要なスキルや知識を向上させ、会社全体として競争力を高めることを目的に「社員の継続学習」を奨励しています。2008年度には継続学習の場としてウシオラーニングセンターを設立。就業時間の5%を、スキルアップや社員教育のために使うことを認めています。

同センターではウェブ上で行なうセミナー(Webinar)を利用しているため、ウシオアメリカ内であれば勤務地を問わないほか、移動時間や費用もかからず、所属部長の承認さえあれば誰でも受講することが可能です。2008年6月から約1年かけて行なわれた「Lighting Specialist I 養成コース」では、カスタマーサービスと内勤営業所属の9名が受講。みごとNAILD*認定の資格を取得しました。今後はプログラム数を増やし、より多くの受講生のスキルアップをサポートしていく計画です。



ウシオラーニングセンター

* The National Association of Independent Lighting Distributors (NAILD)が作成・発表した、照明の基本・応用知識について学ぶ新しい教育プログラム。受講者はライティング・ソリューションの設計に携わっていない者が対象。

お客さまとともに

お客さまは誰かを考え、「あたり前品質」の上を行く「魅力的品質」を備えた製品・サービスの提供を目指します。

光のトリセツ

これまで、ウシオ電機が製造・販売している製品を紹介するカタログはありましたが、お客さまの目的から製品を選ぶような製品カタログはありませんでした。そこで光の機能をよく知らないお客さまにも光の機能を分かりやすく説明し、悩みを気軽に相談いただけるようにという目的で「光のトリセツ」を作成しました。同時に、播磨事業所に共同実験室「USHIO Techno-Lab」を整備し、お客さまのボトルネック解消に役立てていただけるようにしています。「光のトリセツ」はホームページ上でご請求いただけます。



光のトリセツ

品質方針

ウシオ電機では、これまで播磨事業所と御殿場事業所でそれぞれで定めていた品質方針の上位方針として新たに全社統一の品質方針を2010年4月に制定しました。今まで以上に品質向上の取り組みに力を入れていきます。

基本理念

ウシオは製品の品質最優先と認識し、世界のマーケットへ高品質で、安全で信頼性の高い経済的な製品とサービスをタイムリーに提供し、顧客の要求に応えます。

行動指針

1. お客様第一、品質第一に徹して、最新技術で、魅力ある商品を開発して、顧客の要求と信頼に応えます。
2. 顧客のニーズを満たすため、品質マネジメントシステムを全社へ展開し、その有効性の継続的な改善に取組み、さらなる品質の向上に努めます。
3. 顧客との情報共有化を図り、コスト改善、新製品開発、新規市場開発を行い、世界マーケットへ、高品質で、安全で信頼性の高い経済的な製品をタイムリーに提供します。

2010年4月1日
ウシオ電機株式会社
代表取締役社長
菅田 史朗

Web <http://www.ushio.co.jp/jp/csr/society/customer.html>

お取引先さまとともに

お取引先さまとは、お互いの立場と権利を尊重しながら、共存共栄のために何をすれば良いかを一緒に考え、行動していく取り組みを行なっています。

公正公平な調達

ウシオ電機は、企業間の自由にして公正な競争は社会の活力ある発展の源であると考えています。お取引先さまとの関係は、共存共栄の考えのもとに、常にお取引先さまの立場と権利を尊重し、また「下請法」をはじめとする法令・社会規範を遵守し、健全な商習慣に則った取引を行なっています。

調達活動は、所定の教育・指導を受けた調達部門の購買担当者が行います。新規取引に際しては、品質、コスト、納期および環境対応力などを客観的な判断に基づき決定し、公平・公正な取引を行ないます。

御殿場事業所における取り組み

御殿場事業所では、調達業務に関わる社員全員が下請法に関わるセミナーを受講し、下請法に対する理解を深めるようにしています。

また、「お取引先さまと一緒に考え、行動する」ことを重視し、納期遅延や品質に関わるトラブルが発生した際にも、ともに原因を考え対策を練る取り組みを行っています。

この結果、請け納期遅れ率の改善および不適合率の低減の取り組みについて、2009年度目標を達成しました。

播磨事業所における取り組み

播磨事業所では、部品材料の海外からの調達や海外製造拠点への供給など、海外との取引の増加に伴い、貿易業務を資材部に集約し、安全保障やEARなど多様化する海外取引に関する法規制を専門的に習得し、適切に対応できるようにしました。

また、調達に関わる者に対し、「下請法」「環境規制」「外為法」などについての教育プログラムを実施し、法規制が確実に遵守できるよう進めています。

さらに、海外拠点のお客さまからの環境についてのご要求やお問い合わせに対し迅速に適切に対応が図れるよう、播磨事業所と海外拠点で共同チームを組織し、環境対応のレベル向上を行なっています。

Web <http://www.ushio.co.jp/jp/csr/society/partner.html>

エコアクション21取得支援

お取引先さまと共存・共栄の関係を築くために、2006年度から「エコアクション21(EA21)」の説明会を開催しています。2008年度に続き2009年度もこの説明会を拡大・発展させ、EA21認証取得講座を開催しました。この結果、2009年度は御殿場事業所での認定お取引先さまのEMS取得率目標50%に対し、57.1%の実績となりました。2010年度は60%以上の認定お取引先さまでEMS取得することを目標として取り組んでいきます。

播磨事業所では、2008年度にEA21認証取得講座に参加され審査に進まれた11社のうち、10社がEA21の認証を取得されました。2009年度は、お取引先さまに姫路市が主催する環境プログラムに参加いただき、現在1社が認証取得に向け準備を進められています。

グリーン調達基準

ウシオ電機では、資材の購買活動に対する指針として「グリーン調達基準」を制定し、ホームページで公開しています。RoHS指令をはじめとした各国の法規制に対応するとともに、独自の環境影響化学物質を規定し、製品含有化学物質に関する内外の要求に応じています。2010年の3月には、REACH規則をはじめとする最新の法規制に対応するために、改訂版を公開しました。グリーン調達基準では、さらに基準を遵守するための体制を自己評価する評価表を付すとともに、環境マネジメントシステム(EMS)の構築をお取引先さまにお願いしています。

Web <http://www.ushio.co.jp/jp/eco/approach/green.html>

お取引先さま説明会の実施

2010年の3月にウシオの「グリーン調達基準」が改訂されたことを受け、播磨事業所にてお取引先さまへの「ウシオグリーン調達基準改訂説明会」を開催しました。75社にご参加いただき、グリーン調達基準の改訂内容の説明をはじめ、REACH規則など環境規制の最新動向、ウシオ電機の環境やCSRに対する取り組みなどの説明をしました。ウシオ電機の現状と活動内容をご理解いただくことで、お取引先さまとのより一層の関係強化を図っていきます。



お取引先さま説明会の様子

地域社会とともに

国際社会の一員として、それぞれの地域社会の発展に貢献するような取り組みを行なっていきます。

高校生の工場見学会開催

ウシオ電機の各事業所では、地域コミュニケーションの一環として、地元高校生の工場見学会を行なっています。2009年7月には播磨事業所のある姫路市の高校生が、9月には御殿場事業所のある御殿場市の高校生がそれぞれの事業所を訪れ、製造ラインなどの見学を行ないました。播磨事業所では「学ぶことについて」と題したグループワークを高校生と同校のOB・OG社員が一緒になって行ない、御殿場事業所ではUVランプの製造ラインやランプを組み込んだ装置の製造工程を併せて見学することにより、光の専門メーカーとしてのウシオ電機に対する興味や理解を深めていただく良い機会になっています。



御殿場事業所見学の様子

「姫路あかりファンタジーワールド」への参加

ウシオライティングが参加するNPO法人「あかりの街ひめじ」は、あかりの学術、文化、芸術振興と子どもの健全育成に関する事業の一環として、「姫路お城まつり」に協力しています。

この「姫路お城まつり」の一連行事である「姫路あかりファンタジーワールド2009」が2009年8月1日に行われ、「あかりの街ひめじ」がこのイベントを盛り上げました。

中高生が制作した直径3～6mの「スター★ナイトドーム」は、見るものをファンタジーの世界にいざなう竹を使ったあかりのモニュメントで、ウシオライティングはハロゲンランプを提供しました。

また、夜の動物園をライトアップする「スター★ナイトZOO」にも協力するなど、あかりのイベントを多面的にバックアップしました。



スター★ナイトドーム

ユナイテッドウェイに参加

クリスティカナダでは、これまでに引き続きユナイテッド・ウェイ(ボランティアやNPO活動の資金源として、寄付を集め配分する非営利団体)キャンペーンを実施しました。今年のキャンペーンのテーマは、イギリスの人気番組をもじって「Christie Got Talent」とし、様々なイベントやサイレントオークション、バイクセール(自宅でクッキーやケーキを焼いてそれを売ること)、ミニホッケー競争などの楽しい行事を通じて、2009年度は6万5330カナダドル(573万円)が集まりました。2006年度に比べると実に90%の伸び率となっています。ユナイテッド・ウェイのために集められたこれらの寄付は、全額が、困っている家族や子供たちのために地元の施設に贈られます。

「ウシオエンジェル」

ウシオアメリカのオレゴン工場のあるニューバーグ市のコミュニティには、オレゴン工場の社員たちを「ウシオエンジェル」と呼ぶ人たちがいます。これは2005年に同僚を癌で亡くしたのをきっかけに、オレゴン工場の社員に芽生えたチャリティー精神とその活動を知る人たちがつけたニックネームで、今ではアメリカの癌協会が毎年全国(市・町単位)で開催する「リレーフォーライフ」にウシオの社員が参加する際のチーム名になっています。「リレーフォーライフ」は、その地域の学校の校庭や公園の小道などを各チームが交代で24時間歩き続けるイベントです。24時間通して歩くのは、24時間休みなしで体をむしばむ癌への挑戦、そしてその癌と24時間休みなしで戦っている人への応援の意味が込められています。ウシオアメリカのオレゴン工場では、日頃から社員が手焼きのケーキやクッキーを持ち寄って販売したり、手づくりのギフトバスケットや家で使用しなくなったものをオークションに出すなどして、2009年6月に行われた「リレーフォーライフ」において1000ドル余りを寄付しました。



「ウシオエンジェル」メンバー

Web <http://www.ushio.co.jp/csr/society/community.html>

エコキャップ運動に共同取り組み

ペットボトルのキャップ回収・再資源化で得た売却益で、発達途上国の子供たちにワクチンを送る運動に、ウシオ電機本社に加え、2009年度は新たにウシオライティングとジーベックスが、一緒に取り組んでいくことになりました。

第1回の回収では全部で51.6kg、約2万個のペットボトルキャップを回収しました。これはポリオワクチン25.8人分になります。

淵野辺駅周辺清掃ボランティアへの参加

日本電子技術では、5月9日、会社の最寄り駅でもあるJR横浜線の淵野辺駅周辺の清掃活動に参加しました。当日は天候にも恵まれ、朝9時から約2時間、道路に生えている草むしりやゴミ拾いを行ない、地域の人たちと一緒に汗を流しました。最初は軍手姿でゴミ袋を抱え、駅前をウロウロするのは抵抗もあったのですが、気付けばバスの横で草をむしり、タクシーの合間をすり抜けゴミを拾っていました。特に駅前ロータリー内での作業は、日ごろ見慣れない角度からの景色を楽しみながら清掃活動をすることができました。

台風8号への義援金贈呈

ウシオ台湾では、2009年8月に発生した台風8号(MORAKOT)の被災者に対し、中華国内政部を通じてNTD150,000を寄付しました。この台風は、過去50年で最悪の災害と言われ、特に台湾南部は壊滅的な被害を受けました。農業・漁業の甚大な打撃を含めると、金額的損失は約NTD300億とも言われています。今回の寄付活動は、日ごろお世話になっている台湾および被災者や被災地の支援に役立て、1日でも早い復興を願い、行ったものです。

「ソーラー10種競技大会」支援

ウシオアメリカはルイジアナ州立大学ラファイエット校に、同社製のLEDを寄付しました。寄付をしたLEDは、米国エネルギー省が2年に1度開催する住居の設計・建築、建物の魅力・市場での実用化の可能性、またソーラー発電を活かし電力効率の良さなどを競う「ソーラー10種競技大会」において、同校が設計した住居に使用されました。初出場ながら健闘し、Market Viability賞(市場での実用化の可能性の高さ)とPeople's Choice賞(人気を最も集めた住居)の2つを受賞しました。



ラファイエット校が設計した住居

ウシオ育英文化財団

ウシオ育英文化財団は人材育成、学術・文化の発展に寄与することを目的に、1994年、ウシオ電機創立30周年記念事業として設立。学生への奨学金や学術研究・文化活動の助成などの事業を行なっています。2009年度は大学院生(留学生含む)52名、高等専門学校専攻科生11名に奨学金を支給しました。

「蘇州大学牛尾電機奨学金」制度

牛尾電機(蘇州)有限公司は、2009年1月に中国の蘇州大学との間で「蘇州大学牛尾電機奨学金」制度の協定書を締結しました。これは、中国江蘇省にある外資企業としては初となる、教育事業への貢献を目的とした非営利性基金会「江蘇牛尾英才助學基金会(2008年設立)」の事業第1号となるものです。10月には奨学金授与式が蘇州大学にて行われ、授与式では、第1期生となる35名の蘇州大学学生たちへ、「奨学金荣誉证书」が手渡されました。



第1期生集合写真

環境の取り組み

ウシオ電機環境方針

基本理念

ウシオは地球環境との共生が企業としての最重要課題の一つであると認識し、事業活動のあらゆる場面における、環境保全への取り組みを通じて、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

行動指針

- ① 国内外の法規制や環境上の規範の遵守はもとより、さらに自主的な基準を設定し、その実現に努めます。
- ② 全事業領域において、廃棄物・有害物質の削減、省資源、省エネルギーおよびリサイクルを推進し、環境負荷の低減に努めます。
- ③ 環境に配慮した「光技術・光製品」の開発・提供に継続的に取り組みます。
- ④ 化学物質や廃棄物による自然環境の汚染など、環境リスクの予防に努めます。
- ⑤ 環境保全への取り組みについて定期的な監査を実施し、環境マネジメントシステムの継続的改善に努めます。
- ⑥ 社会の皆さまに、環境への取り組みについての情報を提供し、対話と相互理解のもと、さらなる環境活動の向上に努めます。
- ⑦ 従業員一人ひとりが、環境保全のために果たすべき役割を自覚し、循環型社会の実現に向けて貢献します。

2005年3月1日
ウシオ電機株式会社
代表取締役社長(環境委員会委員長)

菅田史朗

第二期環境行動計画ハイライト

ウシオグループでは、2007年より2009年までの3年間、第二期環境行動計画の目標達成に向けて取り組んできました。以下は第二期環境行動計画の取り組みの主な成果です。一方で、環境生産性目標、ウシオ電機単体におけるCO₂の削減目標や、環境アセスメントのグループへの展開、スーパーグリーン製品の開発については、満足のいく結果とはなりませんでした。2010年度からは第二期環境行動計画での反省も踏まえ、第三期環境行動計画がスタートします。

*第二期環境行動計画の行動計画と成果の詳細は、ホームページをご参照ください。

Web <http://www.ushio.co.jp/jp/csr/eco/manage/plan.html>

23,953t-CO₂

2009年度のグループCO₂排出量は絶対値で23,953tとなりました。ウシオ電機単体では、1990年度比で実質売上高原単位17.4%削減。ウシオグループ全体では、2005年度比で売上高原単位6%削減しました。

45%削減

ウシオ電機のスーパーグリーン製品として認定された、フラッシュランプアニール装置は、従来のハロゲンランプ方式のアニール装置に比較し、ウェハー枚当たりの電力の45%削減を達成しました。

50.5%削減

物流によるCO₂排出量は、2006年度比で50.5%の削減を行ないました。

26%削減

2006年度比で国内グループの廃棄物量を26%削減しました。

18%削減

マテリアルフローコスト会計(MFCA)に取り組んだ結果、石英ガラスの廃棄率を18%削減しました。

4事業所

国内のゼロエミッション達成事業所は4事業所となりました。

2020年環境ビジョン

ウシオグループでは、2010年環境ビジョンの後を見据えて、2020年環境ビジョンを策定しました。引き続き、低炭素社会、循環型社会の実現に向けて取り組むと同時に、生物多様性社会の実現に向けてウシオグループが貢献できることを2010年度よりスタートする「第三期環境行動計画(3カ年計画)」の中で具現化していきます。

Web <http://www.ushio.co.jp/jp/csr/eco/manage/vision.html>

2020年環境ビジョン

光のイノベーションを通じて、

- 低炭素社会づくり
- 資源の節約
- 生物多様性の保全

に貢献します。

第三期環境行動計画

第三期環境行動計画の策定にあたっては、2020年に実現すべき環境社会の姿よりバックカスティングを行なうことで具体的な目標へのブレークダウンを行ないました。また、ウシオグループ各サイトと綿密に意見交換を行ない、それぞれ地域特有の事情にも配慮した行動計画目的・目標の策定を行ないました。

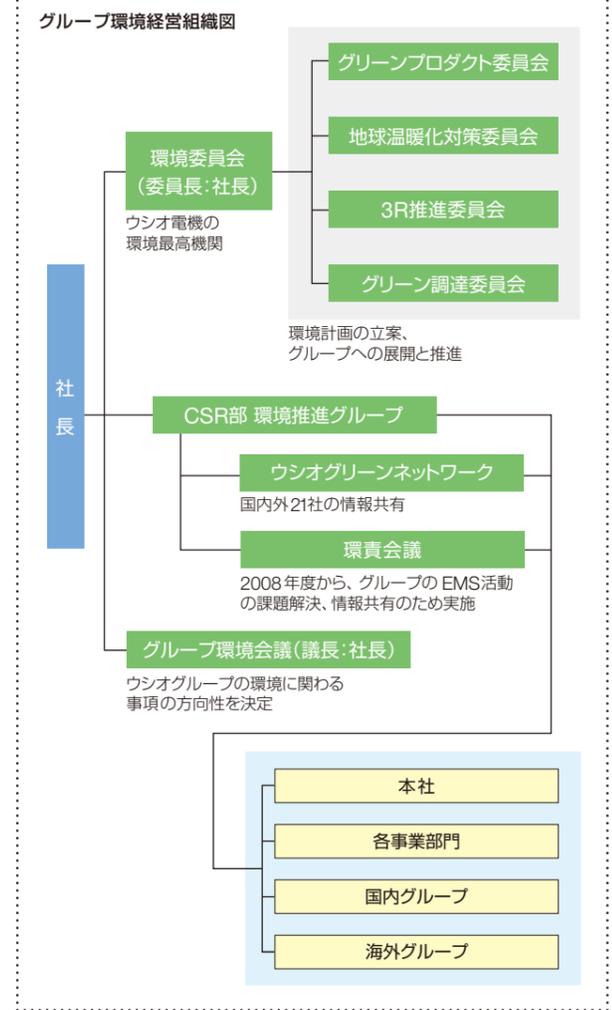
Web <http://www.ushio.co.jp/jp/csr/eco/manage/plan.html>

環境テーマ		取り組み項目		2010年度目標値	2011年度目標値	2012年度目標値	
環境経営	環境ガバナンスの強化	グループEMSのレベルアップ	環境行動計画のグループ連携の強化	環責会議による課題抽出と成功事例の横展開実施(国内生産サイト)	環責会議による課題抽出と成功事例の横展開実施(国内全サイト)	環責会議による課題抽出と成功事例の横展開実施(国内外サイト)	
	カーボンマネジメント	カーボンアカウンティングの公開		ガイドラインの策定	グループ内試行	カーボンアカウンティングの公開	
環境に配慮した製品性能向上活動	環境配慮型製品の拡大	環境配慮型製品の拡大	スーパーグリーン(SG)製品の充実	グループ全体での展開 グループ累積5件	グループ全体での展開 グループ累積10件	グループ全体での展開 グループ累積15件	
		製品のCO ₂ 削減	環境効率の向上 基準年:2000年度	主要製品の環境効率15%向上	主要製品の環境効率20%向上	主要製品の環境効率25%向上	
		材料の3R(リデュース、リユース、リサイクル)	特定材料のリサイクル率の向上 対象:タングステン	回収システムの確立 再利用しやすい設計の確立 回収実績数値の把握と2011年以降の数値目標検討	リサイクル率の向上	リサイクル率の向上	
環境に配慮した事業活動(環境生産性の向上)	地球温暖化対策の強化(省エネルギー対策)	エネルギー起源のCO ₂ 排出量削減(省エネルギー対策) 基準排出量:2006~2008年度の排出量の平均値 対象:全グループ		基準排出量の1%削減	基準排出量の2%削減	基準排出量の4%削減	
		物流のCO ₂ 排出量削減 基準排出量:2006~2008年度の排出量の平均値 対象:国内グループおよびアジア生産拠点		基準排出量の2%削減	基準排出量の5%削減	基準排出量の10%削減	
	資源の節約	資源生産性の向上	廃棄物総発生量の削減	ゼロエミッションの推進	ゼロエミッションの推進	ゼロエミッションの継続	
			主要資材の投入資材量に占める廃棄物量の割合の改善 基準年:2009年度 対象:国内ランプ生産サイト	投入資材量に占める廃棄物量の割合を2%改善	投入資材量に占める廃棄物量の割合を5%改善	投入資材量に占める廃棄物量の割合を10%改善	
		資源利用の効率化	水資源の有効活用 基準投入量:2006~2008年度の投入量の平均値	投入量2%削減	投入量5%削減	投入量10%削減	
	化学物質管理	グローバル規制への対応	グループCMSの連携強化	生産グループのCMS構築と国内生産グループの運用	海外生産グループのCMS運用	CMSのグループ内連携と共有の仕組み構築	
			サプライチェーンの連携強化	使用部材の環境負荷評価のガイドライン作成	使用部材環境負荷評価に関するサプライチェーンコミュニケーション実施と試行	使用部材の環境負荷情報管理システム構築	
		有害化学物質の管理	有害化学物質投入量の削減 基準投入量:2006~2008年度の投入量の平均値	重点化学物質の選定	重点化学物質の基準投入量の5%減	重点化学物質の基準投入量の10%減	
	環境社会貢献活動	ステークホルダーとのコミュニケーション	環境情報の公開		サステナビリティレポートの継続発行	サステナビリティレポートの継続発行 グループ会社毎の環境情報の開示の準備	サステナビリティレポートの継続発行 グループ会社毎の環境情報の開示
			ステークホルダーとの対話		各種展示会での環境広報活動の実施	各種展示会での環境広報活動の実施 ステークホルダーダイアログの開催	各種展示会での環境広報活動の実施
社会貢献活動		環境貢献活動・社会貢献活動への参加・開催		地域環境活動への参加の拡大	地域環境活動への参加の拡大 環境・社会貢献活動の主催	環境・社会貢献活動への参加・開催	
生物多様性の保全		事業活動が与える生物多様性の評価および改善		生物多様性保全の活動ガイドラインの作成	影響度評価の実施	評価に基づくフィードバック	

環境マネジメント

環境経営推進体制

「環境委員会」は社長を委員長とし、ウシオ電機の環境への取り組みに関する最高決定機関として位置付けています。グループ全体の環境取り組み方針を決定する「グループ環境会議」では、社長を議長とし、各グループの最高経営責任者を集め毎年1回会議を開催しています。環境委員会の直下には4つの「課題別委員会」があり、現場レベルでの取り組みの推進を行っています。各委員会での決定事項などは、「CSR部」および「ウシオグリーンネットワーク(UGN)」を通じ各事業部、グループ会社に周知を図っています。各事業部、グループ会社は、自立的に環境活動を推進し、全体目標を達成します。



Web <http://www.ushio.co.jp/jp/csr/eco/manage/system.html>

G8取り組み

ウシオグループ全体の環境の取り組みは、各社の独自性を活かしつつ、2005年2月に「グループ環境会議」で制定した「グループ環境ガバナンス(環境経営基盤)の強化8項目」に従ってベクトルを合わせています。2008年度以降は、UGNの活動に加えて、各サイトの環境責任者による会議体を設け、問題の共有化や相互の啓発を通じてグループ環境活動の一体化を深めています。2009年度は第三期環境行動計画の策定に向けて20回以上の各グループとの会議を重ね、環境行動計画の立案と目標達成に向けた協力関係を話し合いました。

グループ環境ガバナンス(環境経営基盤)の強化8項目(G8)

1. 環境活動は全グループ会社で実施する
2. ウシオの環境行動計画はグループ全体の目標とする
3. 国内はISOで活動し、海外はISOあるいは自主的なEMSで活動する
4. 製造系の会社はISOで活動する
5. 環境活動の実施状況を内部監査でチェックする(相互監査の実施)
6. 環境コミュニケーションは環境マネジメント統括室を通じて一本化する
7. 環境パフォーマンスデータ、環境会計などの環境情報を公開する
8. グループ環境保全活動を支援する

関東地区-内部環境監査員養成合同教育を実施

2009年8月27日、ウシオ電機本社で関東地区の内部環境監査員養成教育を実施しました。ジーベックス、ウシオライティングなどグループ会社からも参加があり、合計11名が受講しました。これまでは2日間の日程で開催していましたが、今年からは初めてe-ラーニングを導入。講義は1日のみとしました。例年より演習時間を増やし、実効性のある取り組みを行ないました。



内部環境監査員養成合同教育の実施

地球温暖化防止の取り組み

2012年までにエネルギー起源のCO₂排出量を基準排出量の4%削減し、物流起源のCO₂排出量を排出基準量の10%の削減を目指します。

エネルギー起源のCO₂排出量削減の取り組み

ウシオ電機単体目標に対し、実質売上高原単位で1990年度比17%減と目標未達となりましたが、グループ全体では、売上高原単位で2005年度比6%削減し、目標を達成しました。単体目標が未達となったのは経済環境の悪化による影響です。一方、省エネワーキンググループなどを中心に省エネを推進した結果、播磨事業所では2008年度に比較し原単位を1.8%向上しました。



播磨事業所の取り組み

ウシオグループのCO₂総排出量のうち播磨事業所のCO₂排出量は35%程度を占めています。播磨工場では、生産設備の効率運転などの生産部門を中心とした削減取り組みを行い、原単位の改善を行なうことができました。具体的には以下の通りの取り組みを行ないました。

1. 生産に関わるエネルギーと間接に関わるエネルギーに分け、前者は製造部署、後者は3つのワーキンググループ(「給排気・空調・照明WG」、「エネルギー標準化WG」、「ライフテスト・エージングWG」)を中心とした取り組みを行いました。
2. 2009年度は特にライフテスト・エージングWGを中心に、ライフテスト用電力使用量の多い技術部署と開発段階でのCO₂削減について協議し、ライフテストの時間、数量、電力の設定根拠、判定基準を製品毎に行い、絶対値目標を設定し取り組みました。
3. 製造部署では省エネ取り組みのためのアイテム抽出を目的に、TPM推進室と各製造部署の代表者による工程巡回を開始しました。2009年度下期からは生産技術部、管理課、環境推進グループが加わり、角度を変えた視点での巡回を継続しています。
4. これらの活動は省エネ推進会議を毎月開催し、各WGや生産部署の活動状況について話し合いました。
5. 2009年12月には「省エネテーマ」に絞った改善提案を集中的に募集し、509件の提案を集めました。

御殿場事業所の取り組み

御殿場事業所におけるCO₂の排出量は、グループ全体の10%程度を占めています。御殿場事業所では2008年に省エネ委員会を発足させ、2009年には事業所のエネルギー管理部署である施設部の諮問機関とし、以下のような省エネ活動を推進しています。

1. 電力監視システムの導入
2. 委員による昼休みの職場巡回(消灯確認、PCモニターのチェックなど)
3. 事業所内蛍光灯の間引き
4. 夜間残業エリアの設定(夜間点灯する事務所を限定して、残業できる場所を限定)
5. エアコン設定温度を決定・表示(夏季28°C、冬季20°C)
6. コンプレッサーの自動制御化

地球温暖化防止の取り組み

BLV Licht - und Vakuumtechnik GmbHの取り組み

BLV Licht - und Vakuumtechnik GmbHでは、加熱用ランプのライフテストの廃熱を倉庫の暖房に利用しています。また新たに2KWスタジアム照明用ランプの廃熱利用を前提に、ライフテスト設備の準備を行なっています。

ウシオアメリカの取り組み

ウシオアメリカのオレゴン工場では、現在工場内に取り付けられている照明設備の見直しを行ないました。電力消費量の削減はCO₂の排出量低減の効果が最も大きく、またコスト削減にもつながります。そこで、現在の4フィートの蛍光灯をウシオアメリカで扱っている省エネタイプの電球に交換することにしました。これにより、省エネと併せコストセービングも実現する見込みです。また、サイプレスオフィスでは、電力供給会社の提供する、オンラインによる電力消費量モニターリング・プログラムを受けることにしました。このプログラムを利用し、使用パターンをモニターリング・分析し、まずは消費電力の大きいもので消費時間帯をずらせるものを特定していく計画です。1日のうちで最大消費電力が200kWを超えないように電力消費の集中を避けるよう配分することで、電力削減の効果が見込めます。

クリスティ・デジタル・システムズの取り組み

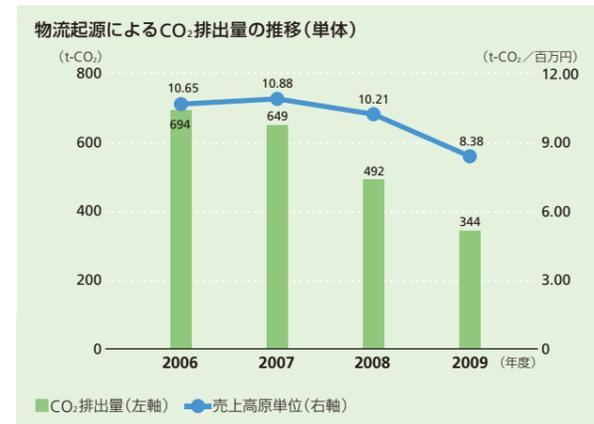
クリスティデジタルシステムズでは、デジタルシネマプロジェクトの急拡大に伴う大幅な生産増に直面しています。しかしながら以下の削減プログラムを実施し、2009年度には、生産高原単位で前年度比約6割削減を達成しました。

- ・製品の通電テストの時間短縮
- ・工場屋根の断熱の強化、窓ガラスの遮光性の強化や設備の熱効率の向上によるNLGの使用量削減
- ・プロジェクト製品の熱負荷検査時の廃熱を冬季の暖房エネルギーとして再利用

物流起源のCO₂排出量削減の取り組み

物流起源によるCO₂排出量の削減では、播磨事業所において32%、御殿場事業所において70%の削減を達成し、ウシオ電機単体目標である2006年度比10%以上の改善に対して51%の削減を達成しました。

具体的には播磨事業所と御殿場事業所の共同輸送の実施や、国内輸送距離の短縮化、荷物の集約による配送便の削減などを行なってきました。



今後の取り組みについて

- 1.ウシオ電機単体では、各事業所の実施事例を相互展開していきます。また、早い段階でこの枠組みの中に国内グループ各社も加わり、相互展開へと発展させていきます。
- 2.海外を含めたグループ企業の省エネ推進力向上を目的に、「省エネ事例集」や「省エネ着眼点リスト」を作成し提供していきます。
- 3.グループ企業における使用エネルギーの「見える化」推進を支援していきます。
- 4.チャーター便の積載率の見直しや配送便の効率化、アジア圏の物流の見直しを行っていくことで、物流起源のCO₂排出量の削減を行なっていきます。

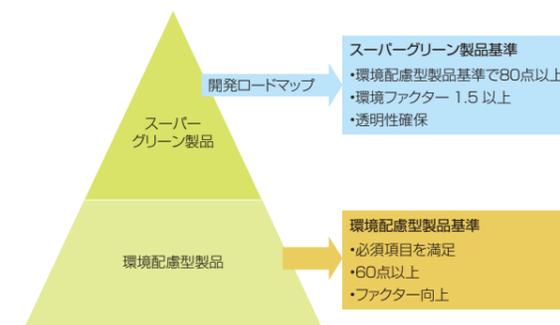
グリーンプロダクトの取り組み

2012年までにスーパーグリーン製品の創出と、製品の環境効率の25%向上を目指し、製品を使用いただくお客さまにとってもメリットのある取り組みを目指します。

環境配慮型製品への取り組み

ウシオ電機では、設計標準に「環境配慮型製品アセスメントマニュアル」を組み込むことで、設計段階より製品が環境に与える影響を事前評価しています。この評価をもとに、環境性能を向上させた製品を「環境配慮型製品」として認定しています。さらに環境配慮型製品の中でも優れたもので、既存製品とは一線を画した革新的環境対応技術を採用した製品を「スーパーグリーン製品(SG製品)」として認定しています。

ウシオの環境配慮型製品の体系



スーパーグリーン製品の開発

SG製品に認定されるためには、「省エネ」「長期使用」「3R設計」「使用材料」「アプリケーション」などで優れた環境配慮がなされたトップランナー製品であることはもちろん、2009年度は世の中の動向に合わせて認定基準の見直しを行ない、新たに環境ファクター*を設けることで基準の明確化を図りました。厳しい審査をクリアすることのできたSG製品には、ウシオ電機の「SG製品シンボルマーク」を付けることができます。

* 環境ファクター
 = (出力比×寿命比) / √{(入力比)² + (3R量比)² + (化学物質含有量比)²}



LCA(ライフサイクルアセスメント)の実施

どんなに工場でのCO₂排出量を削減したとしても、作っている製品が実際にお客さまで使用されるときに排出するCO₂が増えたのでは意味がありません。また、お客さまにとっても使用する製品が省エネ製品であれば、コスト、環境の両面でメリットが生まれます。そこで、製品・サービスのライフサイクル全体(ゆりかごから墓場まで)の環境負荷を定量化する必要が出てきました。

ウシオ電機では、2006年にLCAガイドラインを作成し、LCAを実施対応してきました。2009年度はランプ主要製品の100%でLCA実施を達成。今後は装置類にもLCAの取り組みを拡大し、お客さまのニーズに応えられるよう取り組みを行なっていきます。

今後の取り組みについて

第三期環境行動計画では、環境配慮型製品のグループへの拡大およびスーパーグリーン製品の拡大、またこれまで対応できていなかった装置類でのLCAの実施を行なっていきます。さらに、これらの取り組みを社内で完結するだけでなく、お客さまにも理解していただけるよう、開発・販売と一体となった取り組みを強化していきたいと考えています。

資源節約の取り組み

環境保全、生物多様性への対応は企業としての社会的責任であることが大前提です。併せてマテリアルフローコスト会計(MFCA)の取り組みによるムダの見直しや特定材料のリサイクル率の向上など、環境への取り組みと事業の成果を結び付け、2012年には廃棄物量/投入資材量を10%改善します。

廃棄物削減への取り組み

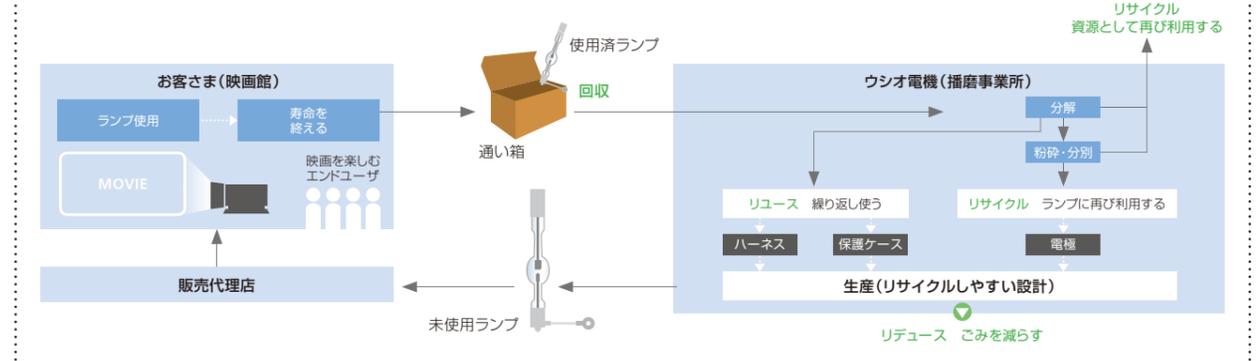
国内グループの廃棄物処理コストは最終的に2008年度比29.8%減となり、目標を達成しました。播磨事業所では、廃棄物の有価物化を推進し処理コストを削減すると同時に、MFCAの展開により石英ガラス材料の廃棄率を18%改善しました。



ランプ回収リサイクル

2007年にスタートした半導体・液晶露光用の超高圧UVランプの回収に続き、映画館用のクセノンランプの回収リサイクルの取り組みもスタートしました。クセノンランプには、貴重なクセノンガスやレアメタルのひとつであるタングステンなどが使われています。回収したランプは、3R活動に基づき、再製品化や社会への還元を行ないます。

クセノンランプ回収リサイクルフロー図



Web <http://www.ushio.co.jp/jp/csr/eco/resource.html>

環境コミュニケーション

誰かがやってくれるだろう…ではなく、自ら率先してやってみようという一人ひとりの行動が大切であると考え、社会に貢献できる企業づくりを目指しています。

カリフォルニアビーチクリーンナップデー

クリスティUSAとウシオアメリカは、開催25周年を迎えたカリフォルニアビーチクリーンナップデーに共同で参加しました(毎年9月の第3土曜日に開催されます)。20名のEMSチームが、「The Save Our Beach Organization」主催の海岸線・川床クリーンアップに参加。3ヶ所の海岸・川床、およびマリナの清掃に汗を流しました。そのうち、海岸ではまず見かけない、片方の靴、古い人形の頭、それから松葉杖などが打ち上げられているのが見つかりました。

この日カリフォルニア州全体で約7万人のボランティアにより、412トンのゴミ(うち、41トンのリサイクル材料)が回収されました。

森林ボランティア活動

NPO法人「ひょうご森の倶楽部」の活動地のひとつ「加古川市弁財天山」に、毎月、ウシオ電機播磨事業所の社員が参加しています。社員の家族が参加すると、倶楽部会員の方々に歓迎され、活動地がにぎやかになります。毎月の活動報告を社内環境メルマガ「エコの風」に掲載、一人でも多くの社員に、森林ボランティア活動の大切さや楽しさが伝わるよう、啓発活動に力を入れています。明るくなって、風の道ができる里山整備の様子、植物・昆虫などの弁財天山の自然を撮った豊富な写真(フォトギャラリー)は、なかなか好評です。地道な呼び掛けですが、2009年度はのべ34名が参加しました。また、「ひょうご森の倶楽部」が支援している「企業の森づくり」や、兵庫県主催の森林ボランティア講座には、倶楽部会員の当社社員も指導スタッフの一員として参加しています。



「ひょうご森の倶楽部」の活動に参加

Web <http://www.ushio.co.jp/jp/csr/eco/communication.html>

ライトダウンキャンペーン

ウシオ電機は環境省主催の「CO₂削減/ライトダウンキャンペーン」に参加し、期間中、主要屋外看板や広告看板を消灯しました。キャンペーンは、6月20日～7月7日まで開催され、中でも夏至にあたる6月21日は「ブラックイルミネーション2010」、七夕にあたる7月7日は「七夕ライトダウン」と名付けられ、両日とも夜8時から10時まで全国のライトアップ施設および家庭用照明の一斉消灯を呼び掛けられています。ウシオでは、ほかにクールビズの実施(冷房温度28℃)など、環境への取り組みの重要性を社内外にお知らせしています。

アースデイイベント

クリスティカナダのグリーンチームは、4月22日のアースデイに、環境取り組みの啓発とグリーンチームの活動結果を従業員の方々に紹介するため、展示会を行ないました。展示会では同社がサポートする地元高校生による電気自動車(バッテリーカー)の走行距離競技参加車両の展示を行ない、学生チームと一緒に参加してお互いに様々な意見交換をしました。そのほか、事業所内に置かれているリサイクル分別容器に、「残飯専用」の有機物収集容器を新たに設置して説明会を開催したり、2008年度のアースデイイベントで配布した苗木の成長具合の絵のコンテストを開催しました。



アースデイイベント

21世紀の森

日本電子技術では、財団法人かながわトラストみどり財団の主催する21世紀の森の下草刈りに総勢6名が参加しました。鎌で下草を刈るのですが、インストラクターが丁寧に作業を教えてくださいなので初めての参加者でも大丈夫です。8月の開催とい

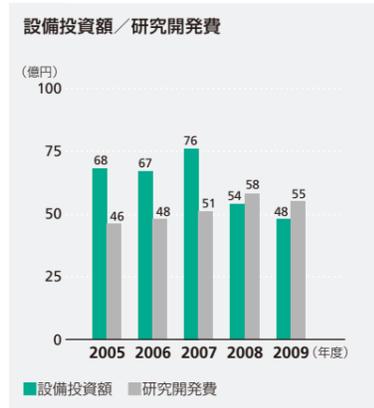
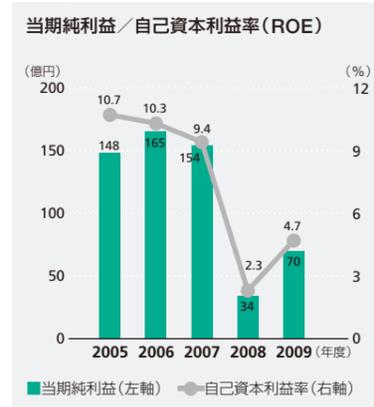
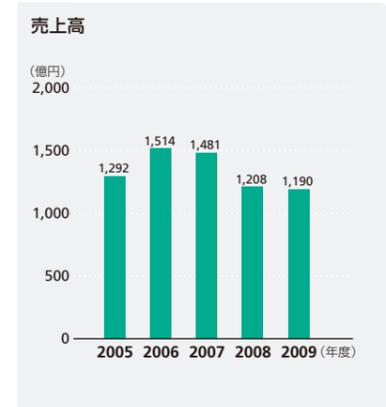


「21世紀の森 下草刈り」に参加

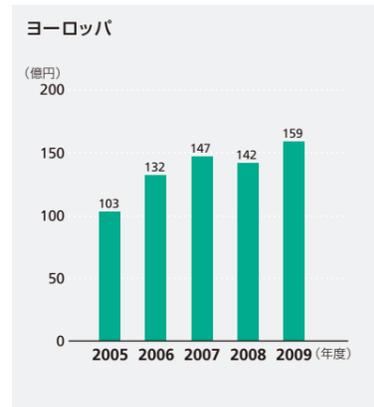
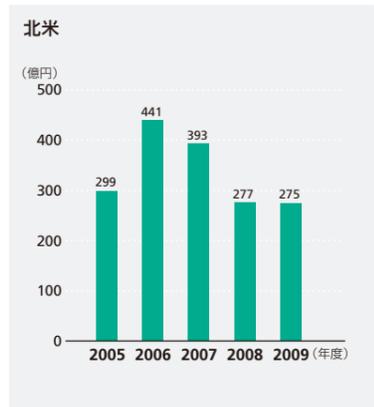
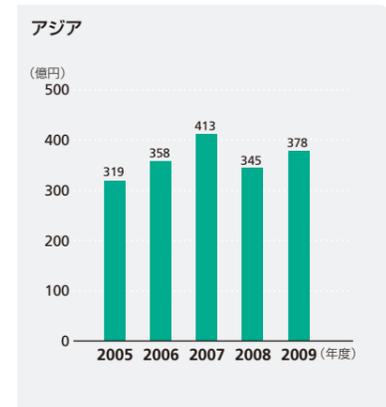
うことで、夏真ただ中の日差しが照りつけ汗が滴り落ちるほどの暑さでしたが、怪我もなく所定の作業を終了することができました。

経営・財務報告

主な経営指標の推移



海外売上高の推移



第三者意見

サステナビリティレポート 2010を読んで



高崎経済大学
地域政策学部 准教授
土肥 将敦

ウシオ電機の「サステナビリティレポート2010」は、これまでの各報告書で考慮されてきた経済・環境・社会のトリプルボトムラインの考え方を残しつつ、「人」「環境」「CSRへの取り組み」を重視した構成で報告されていることが特徴である。とくに、現場の一人ひとりの社員の声を拾い上げる形を採用した特集は、企業理念の第一番目に「社員」を掲げるウシオの伝統とも呼応しており、全社レベルでCSR経営を果たしていこうとする企業メッセージが伝わってくるものである。

また、環境面ではこれまでの環境行動計画の成果と反省(数項目の未達成目標など)を踏まえて、今年度から「第三期環境行動計画」が策定されており、環境面での取り組みは年々充実したものになっているといえよう。

現在のCSRの議論で問われているのは、その事業が社会に貢献しているかどうかや、利潤をどのように社会還元するかという側面だけではなく、「本業の活動そのもののあり方、取り組み方」である。つまり、「どのような経営プロセスを通して利潤を出していくか」が問われているのであり、その意味では、ウシオ電機の経営プロセスの中にCSRがどのように組み込まれているのかがやや見えにくいレポートとなっている。社会還元していくという場合においても、例えばP16やP27にある社会貢献活動への取り組みについては、どのような基本方針のもとで地域社会への貢献が行われているかの説明があれば、読者にとってはさらに理解しやすいと思われる。

これらを改善するためには、基本的なCSRの方針や活動の軸となるものを明記し、社会性項目においても「第三期環境行動計画」同様に年度目標や戦略を立て、それに基づき、関係各部署で実行される必要があるだろう。また、ステークホルダーとのコミュニケーションや社会貢献活動の取り組みが、P20にあるように「環境」の枠組み内で議論されるにとどまらず、CSR全般の議論として再構築されることも望みたい。これらのプロセスは一朝一夕にできるものではないが、「第三期環境行動計画」において2011年度に計画されているステークホルダーとの対話などを活用しながら、全社的なレベルで、本質的な議論が深まることを期待したい。

第三者意見を受けて

この度は、私どもの「サステナビリティレポート2010」に対し、高崎経済大学地域政策学部准教授 土肥 将敦様より率直で貴重なご意見をいただきましたことに、感謝申し上げます。環境面では、今年度より新しいビジョンを掲げ、第3期環境行動計画に基づき、当社ならではの貢献にまい進してまいります。

社員一人ひとりがその業務の中に社会的責任を担って、ウシオグループのCSR経営を果たしていこうとする企業姿勢を報告したことを、ご評価いただきましたことは、励みとなるものです。

ウシオ電機株式会社 取締役 CSR担当 大島 誠司

今年度は、社員の意識調査や取り組むべき重点項目の抽出などにより、本業と一体となったCSRへの取り組みを積極的に行ってまいります。今後、体制を一層整備し、明確なビジョンと計画に沿ってPDCAサイクルを重ねて、具体的な実績を積上げて行く考えです。

来年度は、経営プロセスの中へCSRを組み込んでいくこの活動を、よりわかりやすいかたちで報告する必要があるとの、ご助言に沿った報告書の作成に努める所存でございます。

USHIO Lighting —Edge Technologies

「光」でできること、「光」だからできること

高精度化、超微細化、低温処理化がどんどん進む技術革新の真ただ中で、
光がこれらのボトルネックを解決する新しい有効な手段として、
様々な分野で重要な役割を担い始めています。
これからの光創造企業集団・ウシオに、どうぞご期待ください。

インターネットでUSHIOのホームページをご覧ください。
<http://www.ushio.co.jp>

本冊子の環境配慮について

この「サステナビリティレポート2010」は、環境に配慮したグリーンプリンティング認定工場、FSC認定紙、VOC（揮発性有機化合物）削減効果の高い「水なし印刷」を使って作りました。またCTP方式を採用し、製版工程における中間材料を全廃しています。



本冊子に関するお問い合わせは下記までご連絡ください。

発行：ウシオ電機株式会社 CSR部

〒100-8150 東京都千代田区大手町2-6-1

TEL: 03-3242-1892 FAX: 03-3245-0589